
別れ

宇ノ鹿 すい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

別れ

【コード】

N0217N

【作者名】

宇ノ鹿 すい

【あらすじ】

別れるお話。ぐがががが。

前から思ってたんだ。俺は君のことが本当に好きなのだろうか疑問だなんて。

だけどそのことは君には勿論言わなかったし、これまでもこれからも言うつもりじゃなかったけど。

でも今、言ってるわけじゃん（笑）なんでこういうことになったかってのは、まあ、いろいろ理由があつてさ。

あのさ、楽しいお話をしようか。

例えば、そうだな。…なんか、楽しい話とかある？ はは、ごめん。俺は特にネタ無いんだ。最近面白いことに出会ってないし。面白いこともやってないし。ごめん。

あ、うん。ああ、飼ってる犬のこと？ ああ、うん。あれは元気だよ。今は暑いから舌を出してへばつてもいるけどね。最近しわが増えた。よばよばになってきてるかな。年齢だね、あいつも。

楽しい話、か。そうだ、あいつはどうしてるのかな今頃。生きてるのかな。元気かな。

笑ってるのかな。泣いてんのかな。感情が激しい奴だったな。会いたいな。

でもやっぱり俺はお前と話してるのが一番楽しいよ、なにより。今までどんな話をしてきたんだっけ。もう覚えてないなあ。なんかずっと昔のような気がするんだよ、最近。なんか、さ。

これ、見て欲しいんだ。

ほら昔二人で買ったガラス細工。お祭りの時。覚えてる？ そっか、覚えてるか。そりゃそうだよな。楽しかったよね、あの時のこととは。ね、楽しいよね。だからさ、もっと楽しい話をしよう。いろんな。二人が微笑んでいられるような。例えばさ君の飼ってる猫の話をしようよ。楽しいよなあ、あいつも。陽気だよなあ。猫。可愛いし。最近、どう？ あ、そっか。やっぱりそりゃ、年齢はとるよね。でも、陽気か。そりゃいいよね。ずっと陽気で居て欲しいよね。欲張りなことかもしれないけどさ。

ね、ね、ねね。もっと楽しい話なんかないの？ そうだなあ、俺も楽しい話を今必死に思い浮かべようとしてるんだけどさ…。ん、何でそんなに楽しい話がしたいのかって？

そういえばさ、車の話でも楽しい話があったよね。そうそうあいつの車。いまだに故障中だぜ（笑）高かったのにな、あれ。でも悪いのはあいつだよな。はしやぎすぎたんだよ。学生気分が抜けきってなかったのが悪い（笑）ははは、楽しいなあ。楽しい…。

なあ、ほんと、楽しかったよいままで。なんかごめんな。無理矢理楽しい話ばっかささせちゃって。最後なのにさ。でも、俺、今朝起きたときにさ、声が聞こえたんだ。大切な人が消えてしまう前には、楽しい話だけしなさいって。言われたんだ。声が聞こえてさ。うん、

いや、本当は占いでそんな感じのことが出てたから。ラッキーアイテムがガラスだったの。だからガラス細工のこととか思い出して…。でも、もう楽しい話、思いつかないや、ははは。……ごめん、ごめんな。

もっと俺が話上手なやつでさ、一日中くっちゃべっても相手を飽きさせないような天才だったら、お前と別れなくて済むのにな。でも、ごめん。もう思いつかねえや。楽しかった。楽しかったよ、ほんとに、楽しかった。お前といれてよかった。手、離すよ。

こんなことになるとは思わなかった。

だけど、仕方がないのかな。こういうのを、仕方がないっていうのかな。

ごめんな。ほんと、ごめん。

お前のことひきとめられなくて本当にごめん。

俺もいつか、そっちにいくよ。

俺は君のことが本当に好きだったよ。これからも好きでいられるように、お前のこと、忘れないよ。

ぜったいに忘れない。

私は何時の間にか浮き上がって、体が何だかおかしいことになって、グロテスクで見えなくなって、辛い。あんなにグロテスクな私は今までで初めて。辛い。そんな私にあの人はずっと、なぜかいろいろくっちゃんべってる。もう私は宙に浮かんで、体には入っていないのね。おかしい話。

出会ったのは何時だった。どっかで出会ったんだよね。そりゃそ

うか、何言ってるんだろ私。だけど、なんだか頭がぼんやりしちゃって全部思い出せないんだよなあ。なんか、思い出せなくてもいつか、って思い始めちゃってる。ねえ、私、これでいいのかなあ。多分、だめだよな。

何で君はそんな泣きながら面白い話ばかりしてるの。無理しないほうがいいよ（笑）無理して笑っても疲れちゃうだけじゃない。悲しい時には悲しい顔してよ。私だって今悲しいんだから、悲しいお話をしてよ。そんな無理しないでよ。あなた話をするの苦手じゃない。それなのに。

あ、でもそのガラス細工は覚えてるよ。懐かしいなあ。あのときどこういう流れで買うことになったのかあんまり思い出せないなあ。ごめん。だけど、だけど私それ大好きなの。今だって大好き。でも、なんでだろうなあ。なんか、悲しい。それ、見ていたくない。どっかに投げ捨ててしまいたいんだけど。なんでだろ、やっぱりひねくれているから駄目なのかな。ごめん。

ごめん、私はいくよ。先に行くよ。

ずっと待ってる。できるだけ長いこと、待ってる。

あなたにまた会いたいもん。

さようなら。

絶対、待ってる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0217n/>

別れ

2011年11月13日17時05分発行